

1) 研究課題名

乳腺腫瘍の病理組織学的・細胞学的症例報告

2) 研究の目的と意義

乳腺の穿刺吸引細胞診や手術が出来る施設は限られています。医師および細胞検査士が経験する機会に乏しいような当院での貴重な症例について、意見を交わし再検討することで今後の細胞診のスクリーニング技術や診断技術の向上に役立てるために、症例報告を行います。本研究課題うち、症例報告の例としては、1 症例目に乳腺 collagenous spherulosis (CS) という現象について細胞診検体の検討を予定しています。CS の細胞診での発生頻度は 0.17%~0.48%とされ少ないですが、細胞像を詳しく報告した日本語の論文が無いのも、認知されない原因の一つと考えられます。乳腺 collagenous spherulosis は、球状物が出現するなど特徴的な所見を呈し、認知していれば良悪性の判定に役立つ所見のひとつとなると考えられるので、症例報告でその意義を提示します。このように、日常スクリーニング業務の中で、判定に迷う特異な所見、意義不明な所見、知名度の低い現象などを有する症例に遭遇した場合で、1 つの経験として報告することに意味のある症例や、検討に意義があると考えられる症例に関してのみを報告対象とします。1 症例ずつ経過を遡って詳しく検討することにより、当初は認識しづらかった新たな知見を得たり、免疫染色で蛋白発現を可視化することにより、一般的にわかりにくい所見も広く共有することができます。また、良性、悪性も含めた様々な乳腺腫瘍における希少例は、各々の施設で 1 症例ずつ症例報告して各症例を積み重ねていくことでしか知見が得られない場合があります。本研究課題では、今後 2 年間で 2 症例をピックアップして報告し、今後の細胞診、ひいては組織診のスクリーニング技術、診断技術の向上に結び付けていくことを目的とします。

3) 研究の方法

既存の 95%エタノール固定細胞診検体および既存のホルマリン固定パラフィン包埋ブロックから薄切した組織切片に、所見を客観的に共有するため通常診断に使われる範囲の特殊染色、免疫染色を追加染色し、細胞診、組織診と併せて供覧し経過を遡って再検討します。例えば 1 症例目の乳腺 collagenous spherulosis では、細胞に p63 抗体を使用した免疫染色を行い、細胞外球状物 (CS) に collagen IV、laminin 抗体を使用した免疫染色と PAS 反応を行います。また乾燥標本ではメイ・ギムザ染色を観察します。これらの検討によって、細胞外球状物の構成成分を調べることにより、球状物の由来を特定し、球状物の形成原因を考察します。球状物 (CS) の出

現の意味することを明らかにし、球状物を所見の一つとして良悪の判定に役立てることを目的としています。文献検討では、CSはその9割が良性疾患に出現するとの海外報告があるため、当院症例の臨床経過とあわせて比較します。これらの検討結果に文献的考察を加え報告としてまとめます。

4) 研究機関

名古屋大学医学部附属病院 病理部

名古屋大学医学部附属病院 医療技術部臨床検査部門

5) 連絡先

名古屋大学医学部附属病院 病理部

病理部長 中村 栄男

名古屋市昭和区鶴舞町 65

直通電話番号：052-744-2111(代表) 内線 2648

6) 苦情等の受付先

名古屋大学医学部 経営企画課：(052-744-2479)